

終系脂肪腫に対する椎弓間アプローチ法と椎弓切開アプローチ法の比較に関する研究

1. 研究の対象

当センターにおいて2010年4月から2021年11月の間に手術施行した終系脂肪腫患者152例

2. 研究目的・方法・研究期間

終系脂肪腫(FTL)は脊髄の係留を引き起こし、脊髄係留症候群(TCS)と関連する事が知られており、FTLの外科治療は係留解離を目的として施行される。従来までは椎弓切開による係留解離術(LOA法)が施行されてきたが近年は椎間アプローチ(ILA法)による低侵襲手術が広まりつつある。FTLの外科的治療については症候性と無症候性で目的がわかる。即ち症候性では症状の進行停止・改善を目的とし、無症候性では予防的手術が施行されている。日本では皆保険制度により予防的手術が可能であり歴史的に多くの予防摘出術が行われてきた背景がある。予防的手術については controversial であるが、推奨する意見もある。FTLの標準的な術式は椎弓切開による係留解離術であるが、近年はより低侵襲な術式が報告されている。本研究の目的は当センターにおいて終系脂肪腫に対する低侵襲手術である椎間アプローチ法(ILA: Inter Laminar Approach)の有効性について従来の椎弓切開アプローチ法(LOA: Laminotomy Open Approach)と比較し検討する事である。

研究方法は後方視的研究である。

研究期間は倫理委員会承認後～2028年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：手術時年齢、性別、無症候性/症候性、既往・併存症(合併奇形の有無)、脊髄円錐高位、症候の術前後変化(UDS; Urodynamic Studies とPT: Physical Therapy 評価による運動機能評価)、手術時間、出血量、合併症・再手術の有無等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先および研究責任者：

あいち小児保健医療総合センター

部署名 脳神経外科 研究責任者および担当者名 加藤 美穂子

〒474-8710 愛知県大府市森岡町七丁目 426 番地

電話 0562-43-0500 (代表) FAX 0562-43-0513

-----以上